

ふじみさらだボール子育て情報

「考える力を育てる宝庫」

平成29年6月28日号

板橋富士見幼稚園



砂場遊びと知恵袋

幼稚園や保育園、そして公園に何故砂場があるのでしょうか。子どもが砂場が大好きだからです。では何故好きなのでしょう。今日は、幼児の心の中から考えてみましょう。

大人は、砂場で遊ぶことはありませんね。あったとしても、子どもと一緒に。まあ一海で、たまに若い青年たちが、みんなでダイナミックな砂遊びをしている様子を見ることはありますが、都会の公園で大人がしているといった光景はまずないですね。小学校にも砂場はありますが、鉄棒をするときのクッションや走り幅跳びの道具としてあるだけで、あまり遊んでいる姿はここにもありません。



すると砂場は、やはり幼児の特別の遊び場と考えても良いと思います。では、砂場で遊ぶ幼児の姿と、その心の中を見てみましょう。砂場では、手で掘る、シャベルで掘る、掘った砂を移動するといった行動がよく見られます。何故掘るのでしょうか。掘りたがるといってもいいでしょう。

人の心理の中に、元々何もない器にモノを入れるという行為を通して、たくさん入れる、たくさん取るといった無意識な量への関心があるからです。もっとたくさん欲しい、だから掘るといった行動を繰り返し、やがて、掘った穴を見て、不思議な世界が生まれるのです。掘り上げた砂山を「山」だ、溝になった掘りは「川」だと、子どもたちは、その溝に水を流し込み、飽きずにどんどん運び、やがてその川に、船を走らせませす。水がなくなると高速道路に変身し、船はブルドーザーとなります。そして、また水をそそぎ込み、川となると、ブルドーザーは船に変身するのです。

実は、子どもたちは、いつもウソ(虚構)の世界と現実の世界を自由に行き来しながら楽しんでいます。想像したことを創造(モノに表す)する力は、大人に向かって知識(学習力)を獲得していくときの「考え方」を導く手立てとなっているのです。幼児期に遊びをたくさん経験した子どもは、大人になって、人の上に立って、人を動かすことのできる人格者となっている人が多いのです。

こどもがどんなに暑くても「遊ぶ」と言って砂場から離れない理由がお分かりになりましたでしょうか。砂場は、その子の知恵を生み出す無限の箱庭なのです。